

*各校の定期テストについて、担当の先生によって難易度が大きく違い平均点が大幅に変わる状況を今後、県教委が指導・改善されないのか？

長年にわたり定期テストの共通化というのは各学校に向けて指導して定期テストの問題の7割程度は共通化をており、かなり浸透してきている。指導と評価の一体化というを求めており、教員が自分の評価軸だけで評価することはないと思っている。各学校において教科会の中でしっかりと指導と評価の計画を共有したうえで授業が行われる。指導と評価の計画に沿って、授業をやらなければならないし、定期試験においても共通のものを使っていくことになると考えている。実際に成果も出てきていると捉えている。指導主事が教育課程調査で直接学校を訪問する際には、定期試験問題の提出も求めており、個別に指導もしている。

*臨時教師の多い学校があるようだが、今後の方針を教えてください。

教員の年齢構成の問題がある。若い教員が増えていることから育産休にはいる教員が多い。そこに関しては完全に代替の臨任の先生しか配置できない。そこで一定数の代替の臨任の教員が発生するという事は起こりうる。それ以外にはこれから先、生徒数が減少に転じていくことも踏まえて教員の採用計画を立てて、一定程度は採用を抑えざるを得ない。結果として一時的に欠員が生じるという事もある。もう一つは臨任の登録者もだいぶ減ってきている。教師不足という言葉もあるように教員を目指す学生の数も減っている。

*指定校推薦の一覧を公開する高校と非公開の高校があるが、個人情報ではないのにHPやプリントで一律に公開することはできないのか？

一面的な情報を基にして学校に序列をつくるような方向に行くことを県教委としては危惧している。学校はいろいろな教育活動に取り組んでいるので、どこの学校から指定校推薦が来ているかということをもって学校の序列化につながることは避けたいと考えており、積極的に公開するという事は考えていない。

*指定校推薦の選抜方法が高校により異なっており、ケースによっては平等ではないように感じる。せめて同一の選考基準にすることはできないだろうか？

学校として進路指導の方針が違うので、これを一律にするというのは馴染まないと考えている。

*多様なニーズに応えるために教職員対象の「進路指導（キャリア）教育」のようなことは実施しているのでしょうか？

県教委としては全県の進路指導担当者を対象として進路指導説明会を実施している。教員の組織にも進路指導協議会というのがあり、そこでも進路指導について勉強している。また、外部人材を活用するという視点で県内10地区にコンソーシアムサポーターを配置しており、主にはイターンシップの実習先の開拓を足掛かりに企業と様々な関係性を作ってもらっている。他には就職支援が必要な学校にはスクールキャリアカウンセラーをクリエイティブ校を中心に9校に配置している。

最後、質問者との直接対話が行えない状況で質問の意図をはっきり伝えられなかったところもあり、県教委からのご回答とかみ合わないところもあったかも知れません。「面接廃止」という話題が新聞紙面をにぎわしていますが、詳細はこれからのこと、あまり騒ぎすぎもいかがかと。来年受験の中三生には、高校改革Ⅱ期の最終年で制度上の大きな変化はないので、普段多い入試に関する質問以外の塾側で悩んだ高校の様子等をお聞きする機会も得られました。進路選択のみに限らず、生徒にとって必要と思われる情報の提供もできたのではないのでしょうか。学習塾と県教委との情報交換が継続できていることに感謝し、また、こういった機会を提供いただいた県教委の方々に感謝いたします。



一般社団法人かながわ民間教育協会 第二部会

県教委の皆さんと塾代表